

活動報告書

Clinical Art Report

事業名	実施日	主催者・開催場所
『ケアするアート 臨床美術の作品展』	2026年5月1日（金） ～5月6日（水）	天平の丘公園内 シェアスペース夜明け前

実施概要

「ケアするアート 臨床美術作品展」を、2026年5月1日から6日まで、下野市天平の丘公園内「シェアスペース夜明け前」にて開催しました。会場である古民家の落ち着いた空間や建物の雰囲気を活かし、多様な表現が展示環境に調和するよう展示構成を行いました。通常の臨床美術展のようにプログラム別に作品を並べるのではなく、作者ごとに作品をまとめて展示することで、一人ひとりの表現の個性や世界観がより伝わる展示を目指しました。また、招待作家として、さとう周太さん（関根一夫先生の甥御さんで、臨床美術をきっかけに制作活動をされている）の作品も展示させていただき、臨床美術から出発した豊かな広がりの可能性を提示していただきました。会期中はワークショップも開催し、20代から高齢者まで幅広い年代の方々が参加しました。見学者は約120名、ワークショップ参加者は62名にのぼり、作品鑑賞や対話を通じて、世代や立場を越えた交流が生まれる機会となりました。物販も試したところ、数は少ないながらも、画材や絵はがきの販売ができました。

写真



当日の様子・参加者の反応

- ・新聞記事を見てご来場いただいた方が多かった印象。その他、FM ゆうがお関係者が4組、出品者ご家族、個人的なつながりのある方が10組ほど、さとう周太さんのお母様からのご案内での来場が10組超だった。
- ・作品を流し見されている方は、大きな反応がない様子が見受けられた。ご説明差し上げると、好意的な感想をいただけることが多かった。
- ・来場者参加型の作品に子ども達が彩色してくれることが多く、賑やかな雰囲気になった。
- ・ワークショップ（即興コーヒー画・15分プログラム）へ積極的にご参加下さる方が多かった。

野新聞

ストレス緩和、認知症予防

臨床美術知る機会に

【下野】絵画などの作品制作を通してストレス緩和や認知症予防などに効果があるとされる芸術療法「臨床美術（アートセラピー）」の普及活動に取り組む「アート・プレイス ボル」の作品展が5月1日から、国分寺・天平の丘公園内の古民家カフェ「夜明け前」で開かれる。講座を通して制作した絵画や立体作品など約50点を展示。主宰の重山愛子さん（54）は「ケアを目的としたアートがあることを知ってほしい」と呼びかけている。6日まで。

（高田真由）

同団体は2025年から活動を始め、これまでジョイフル本田宇都宮店（上三川町磯岡）やゆうがおパーク（中大領）などで臨床美術講座を開催。障害の有無や年齢、作品の巧拙に関係なく、五感を通して作品を描くこと、楽しむことを目的としてきた。

重度障害で手が不自由な受講生でもアイコンタクトで本人の意志を読み取り、一つの作品を

来月1日から
下野で作品展



「アートプレイス ボル」を主宰する重山さん

作り上げている。今回は10〜84歳の受講生21人とゲスト出品としてダウン症の会社員さとう周太さん（35）
栃木市大宮町IIが出展。さとうさんはこれまで県内や東京都内で臨床美術の個展を開催するなど制作に尽力している。重山さんがさとうさんの活動に共感し出品が実現した。受講生ごとに作品をまとめて展示して個人をアーティストとして
みなし、受講の軌跡もたどることができる。
同じテーマでも受講生によって感じ方や表現が異なることを体感できるのも魅力だ。
会期中は臨床美術の考え方や魅力を体験するワークショップも毎日開催。一日午前11時、午後1時、2時からの全3回で予約不要、参加費は500円。定員は各回先着5人。
午前10時〜午後4時（最終日は午後3時）。作品展の入場は無料。
重山さん090・5502・7218。

自由な創作で心健やか

「臨床美術」普及へ 下野・重山さん

アートで心の健康維持などを支援する「臨床美術(クリニカルアート)」の普及に、下野市の重山愛子さん(54)が取り組んでいる。臨床美術を広く知ってもらうと、「ケアするアート 臨床美術の作品展」を5月1〜6日、同市国分寺の天平の丘公園内の「シェアスペース夜明け前」で開催する。【松沢真美】

臨床美術は、1996年に日本で考案された芸術療法的手法。絵画や立体造形などの創作活動を通じて、認知症の予防や子どもの感性教育、ストレス緩和などを目指す。例えば、リングを描く際には、制作に入る前に実

5月1〜6日
受講生作品展



物の匂いを嗅いだり、重さを感じたりと、「五感への刺激」から始めるのが大きな特徴だ。重山さんは特別支援学校勤務時代、誰もが自力で作品を完成させられる臨床美術の丁寧なメソッドに感銘を受け、「臨床美術士」の資格を取得した。「うまい下手という価値観から離れ、楽しく感じたままを表現することで、自分でも気づかなかった創造性が引き出される」とその魅力を語る。昨年3月に教職を早期退職。現在は自身のアート

リエ「アートプレイスボル(ART PLACE POLU)」を主宰する。美術教師として中学、高校でも指導してきた経験を生かし、アトリエでの指導に加え、カルチャーセンターでの講座、高齢者施設や障害のある人の個人宅への訪問など、臨床美術士として活動は多岐にわたる。

今回初めて作品展を企画。10〜84歳の受講生が制作したオイルパステルや水彩、粘土などの作品約50点を紹介する。開催期間中は毎日、予約不要で手軽に体験できるワークショップ(参加費500円)も実施する予定。重山さんは「展示を通じて臨床美術という活動を多くの人に知っていただきたい。福祉や教育に関わる方にもぜひ足を運んでほしい」と来場を呼びかけている。

作品展は入場無料。午前10時〜午後4時。問い合わせはアートプレイスボル(090・5502